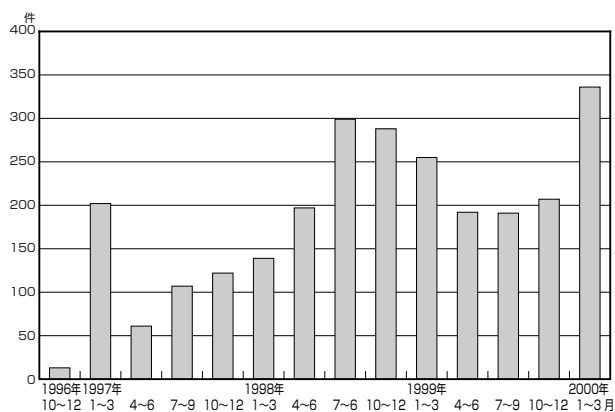


第3章 犯罪・セキュリティ

不正アクセス①

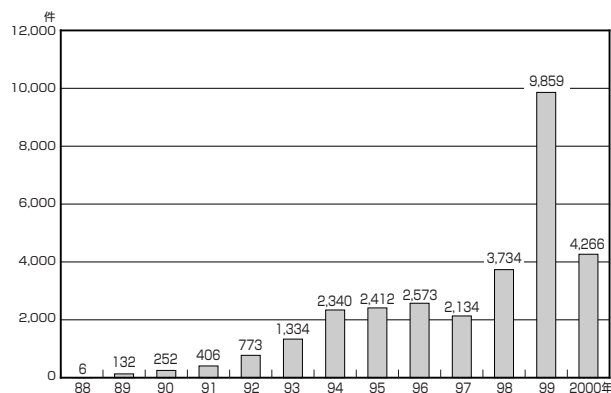
米国では報告件数が1年で2.6倍

資料3-3-9 JPCERT/CCが受け付けたインシデント報告件数の推移



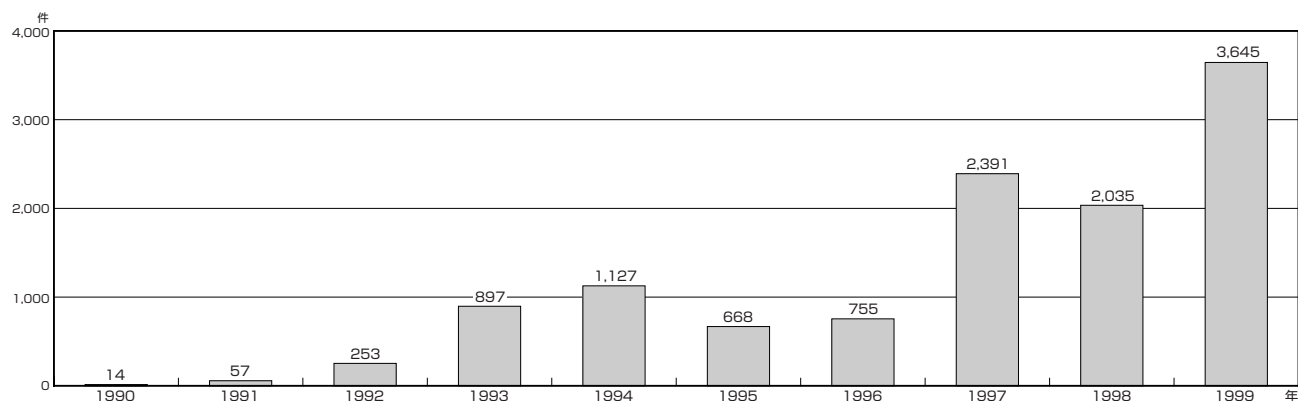
注) 受け付けた報告の件数であり、実際の攻撃の発生件数や、被害件数を推測できるような数値ではない。 出所 JPCERT/CCの資料を元に作成

資料3-3-10 CERT/CCが受け付けたインシデント報告件数の推移



注) 2000年度の数値は4月末現在 出所 CERT/CCの資料を元に作成

資料3-3-11 コンピュータウイルス被害届け出件数の推移



注) 1999年は4月から12月までの件数 出所 IPAの資料を元に作成

解説

1999年初頭から2000年現在にかけてのこの1年、インターネットサーバーに対する不正アクセスについて社会の関心を喚起する事件が発生した。特にY2K（2000年問題）の年始に攻撃の集中が懸念されていたことから、無事な年越しに開放感が漂った矢先、一連の中央省庁ウェブサーバーに対する攻撃（コンテンツ改竄）が発生した。サーバープログラムの脆弱性が放置されていると、このような結果になることを示した。また、JPCERT/CCが受け付けたインターネットに関するインシデント（セキュリティ上の問題として捉えられる事象のことをいう）の報告件数は増加傾向にある（資料3-3-9）。

この期間、現在に至るまで、スキャン行為の広範な流行が継続している。これらはインターネットサーバーの既知の脆弱性を探査するさまざまなツールがインターネット上で入手可能な状況にあ

ることに起因しているものと考えられる。同様にツールによって自動化された攻撃に、サービス妨害攻撃（DDoS攻撃）がある。また不正なメール中継も、引き続き多く発生している。

1999年1年間のコンピュータウイルス届出件数は3645件と前年の約1.8倍と過去最大の数になっている（資料3-3-11）。この数値はIPAに届けられた件数で、国内の被害総数を必ずしも表すものではないが、ネットワークなどの普及に伴い、関連の被害が急増していることを示している。

（IPAセキュリティセンター）



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp